

西濃桃李高等学校 通信教育実施計画

教 科	数 学	科目	数 学 B	単位数	2 単位
対象学年	第 2 学 年	クラス	G 組	H 組	
授業担当者					
教科書	数学B Standard 東京書籍	補助教材	WRITE 数学B 東京書籍		
スクーリング	必要出席時間数	2 単位 × 1 = 2 時間以上		スクーリングとレポートを両方合格 することで履修が認められる。	
レポート	必要提出枚数	2 単位 × 3 = 6 枚			
定期考査	合格得点目標	平均点の半分以上		考査範囲のスクーリング受講とレポート提出が受験要件	

【科目の目標】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学は何千年もの年月を経て発展し、現在でも活発に研究され進化している。普段の生活の場面で、その数学の知識や技能を身に付ける能力を養う。	数列、統計的な推測、数学と社会生活を学び、世界共通の表し方と記法を身に付け、これらを用いて論証を進める能力を養う。	教科書の例や例題の内容を理解し、解法の書き方を覚え、それに沿って練習問題で自分の解答を作る能力を養い、学んだ事を人に説明する力を付ける。

【年間指導計画】 ※学習方法欄の○は週5週3、□は週1在宅・配当時間は週5生を基準とする。

月	指導単元・項目	学習方法			レポート (\times 切期日)	評価の観点			配当 時間
		スクーリング	レポート	考査		知	思	主	
4月	数 列 (1) 漸化式の帰納的定義 (2) 等差数列とその和	○□	○□		No. 1 4/23	○	○	○	6
5月	(3) 数学的帰納法の導入 (4) 等比数列とその和式	○□	○□		No. 2 5/14	○	○	○	6
6月	(5) 数列の和と記号 Σ (6) 隣接二項間漸化式	○□	○□		No. 3 6/11	○	○	○	7
7月	確率分布 (1) 確率の計算	○□	○□		No. 4 7/09	○	○	○	2
8月	前期期末考査対策授業	○□	○□						2
9月	(2) 確率分布と期待値 (3) 分散と標準偏差	○□	○□	前期期末考査 ○□	No. 5 9/10	○	○	○	6
10月	(4) 確率分布と標準偏差 (5) 分散の簡便法	○□	○□		No. 6 10/15	○	○	○	5
11月	(6) 反復試行の確率分布	○□				○	○	○	5
12月		○□				○	○	○	3
1月	(7) 二項分布	○□				○	○	○	4
2月	学年末考査対策授業 (8) 二項分布の平均と分散	○□		学年末考査 ○□		○	○	○	6
3月	(9) 正規分布の平均と標準偏差	○□				○	○	○	4